

(様式1)

平成28年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 013	提案機関名 神奈川県環境農政局水・緑部森林再生課
要望問題名 無花粉スギ苗木のコンテナによる生産について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 本県では平成20年度より無花粉スギ苗木の試験生産が始まり、試験研究機関による種子生産施設の改良と苗木生産者の技術力向上もあり、実生による無花粉スギの安定生産に繋がってきた。一方で、全国的な造林作業システムの中でコンテナ苗の利用が進められてきており、このような状況に対応するに当たって、下記の課題が考えられる。 ・無花粉スギの実生および挿し木によるコンテナ苗生産の適性。 ・実生による生産の場合の無花粉判定の方法。 ・挿し木生産の場合の挿し穂確保および発根率の向上。 ・苗木生産者に対する生産方法の伝授。 これらの課題の解決を含め、コンテナ苗木による無花粉スギ生産手法の開発について、技術的指導を要望したい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究連携課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 林業技術現地適用化事業、無花粉ヒノキの実用化研究		
対応の内容等	無花粉スギの生産にあたって、実生では無花粉の検定が必要であり、必要な技術開発をはかって来ましたが、その効率化が引き続き課題になっています。一方、さし木では、すべて無花粉になるものの成長が遅いと言う問題があります。課題の解決のため、引き続き無花粉スギ検定手法の検討とコンテナ苗の無花粉スギさし木生産については、普及事業である林業技術現地適応化事業の中で取り組む予定です。またコンテナ苗の無花粉ヒノキさし木については引き続き発根率向上のため課題として取り組む予定です。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			